

明日に向かつて

ともに創る

95

大船渡市長 戸田公明

いよいよ今年は 東日本大震災から10年目を迎えます

新元号「令和」の最初の正月です。新年明けましておめでとーございませう。

皆様におかれましては、ご家族・親しい方々と共に輝かしい新春を迎えられたことと、お喜び申し上げます。この1年が素晴らしい年であることをご祈念いたします。

東日本大震災から、間もなく8年10カ月ですが、この間、国・県・関係機関をはじめ、国内外の実に多くの皆様から支援助と温かい励ましを受けてまいりました。

そして、市民一丸となって取り組んできた結果、おかげをもちまして、復興は終盤を迎えております。

そのような中、今後の残された主な課題・事業としては、
・市中心部土地区画整理事業区域内に残っている約20%の民有地の利活用

・被災跡地の利活用（夏イチゴ栽培、中赤崎地区スポーツ交流ゾーン、旧甫嶺小学校活用）

・特別企画（復興記録誌発刊、
（仮称）防災学習センター（津波伝承施設）整備）

・被災者支援（生活支援、心のケア、災害公営住宅のコミュニティ形成支援）
などがあげられます。

施設整備などに係るハード事業は、津波被災地においては復興期間が5年間延長される予定ですが、本市の復興計画期間内に終了するよう最大限努力してまいります。

被災者への各種支援につきましまして、今後とも国・県と歩調を合わせて継続してまいりますので、ご理解とご協力方よろしくお願い申し上げます。

さて、今日までを振り返ってみますと、復興に関して語りつくせないほどの出来事がありました。特に強く印象に残っていることを紹介させていただきます。

それは、住宅全壊数が約2,800軒に上る中、震災直後から市内各所の街並みを眺めては、

安全な高台移転地が有るのか無いのか思いを巡らしていたところ、自衛隊ヘリコプターによる上空からの視察案内があり、復興関係者とともに視察しました。旧大船渡農業高校校庭から飛び立ち、盛町・大船渡町から、三陸町吉浜地区まで被災地上空約15分の飛行でした。

印象に残ったのは、空の青さ、海の碧さ、山の緑、ガレキが着々と片付けられている被災地の様子でした。そして被災した各集落の上空を通過する度に、集落背後には空き地があり、住宅の高台移転地は十分あることが確認されました。

その後は、防災集団移転促進事業の進捗とともに、地域関係者のご協力を得ながら、高台移転地が増え続け、最終的には33箇所（公益的施設用地含む）に上り、早めに完了することができました。

このように、大船渡における高台移転地は、既存の集落の背後に小規模移転の「差し込み型移転」として、全国的に知られました。

この事例も、市民一丸の取り組みの表われであり、協働のまちづくりの貴重な事例です。

今後とも協働を一層推進してまいりますので、ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

名医にきく！講演会第3弾 「高血圧のホントとウソ～なぜ下げなければいけないんですか～」

本市の国保加入者のデータによると、高血圧で治療を受けている人が最も多く、全体の3割となっています。

そこで、プロの視点から、高血圧の最新情報をお知らせする講演会を開催します。

- ▷期日＝2月2日(日)
- ▷時間＝午前10時～11時(開場午前9時40分)
- ▷会場＝リアスホール1階マルチスペース
- ▷対象＝市内在住の人
- ▷演題＝「高血圧のホントとウソ～なぜ下げなければいけないんですか～」
- ▷講師＝大和田真玄医師（岩手医科大学内科学講座循環器内科分野）

- ▷定員＝150人
- ▷参加料＝無料
- ▷申込方法＝電話、ファクス、Eメール
※ファクス、Eメールは、件名を「名医にきく講演会参加」とし、①氏名(フリガナ)②年齢③電話番号を記載の上申し込みください。
- ▷その他＝定員になり次第申し込みを締め切ります。
- ▷申込先／問い合わせ先
健康推進課成人保健係
(☎⑦1581／FAX⑦1589／Eメールアドレス＝ofu_kenkou@city.ofunato.iwate.jp)
※電話受け付けは平日午前9時～午後5時

